

平安京左京六条四坊三町（旧万寿禅寺）跡現地説明会資料

2007年2月3日

所在地：京都市下京区間ノ町通五条下ル大津町

調査期間：2006年11月29日から継続中

調査面積：約486㎡

調査機関：財団法人京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

調査地は平安京左京六条四坊三町にあたり、平安時代後期には白河天皇の御所（六条内裏）が営まれました。六条内裏は東西一町、南北二町の敷地を占め、東側に高倉小路、西側に東洞院大路、北側に六条坊門小路、南側に六条大路が通っていました。

永長元年（1096）八月、白河上皇皇女の郁芳門院はここ六条内裏で薨ぜられました。翌二年（1097）十月、白河上皇は郁芳門院の追善として六条内裏を仏寺（六条御堂）とされました。その後、康和元年（1099）、保安四年（1123）、平治元年（1159）に焼失しましたがその都度再建されました。正嘉年中（1257～1259）に浄土教から禅宗に転じ、六条御堂を万寿禅寺に改められました。延文三年（1358）万寿禅寺は京都五山の五位に列せられますが、永享六年（1434）二月にあった市中の大火で類焼します。しかし、永享九年（1437）大殿、山門、方丈などが再建されました。その後天正十九年（1591）には東福寺の北側に移転します。

調査の概要

今回の調査では、江戸時代の町屋跡の下層から、万寿禅寺に関する園池跡を発見しました。園池跡には、以下の変遷があることがわかりました。

- 1 期：平安時代と推定する池ですが、未調査のため詳細は不明です。
- 2 期：正確な規模や形態は明らかではありませんが、調査では東西方向に約17mにわたって検出しました。池の勾配は大変緩やかです。池の北側から東岸にかけて焼けた瓦が多量に出土しました。また、池底からは15世紀中頃の土器も出土しました。
- 3 期：2期の池を埋め立て規模を縮小した池です。西岸の位置は2期とほとんど変わっていません。
- 4 期：今回の調査で検出した最も新しい時期の池で、3期よりさらに規模を縮小しています。規模は東西約7m、南北約13m、深さ約50cmです。池内には、腐植土が厚く堆積していました。なお、池の北岸には、チャートが庭石として据え付けられています。

むすび

今日までの調査で、3期以上にわたる園池の変遷を明らかにすることができました。2期とした園池から出土した焼け瓦は、永享六年（1434）の大火で焼失した瓦とされています。4期については、万寿禅寺が東福寺の北へ移転する頃とされています。

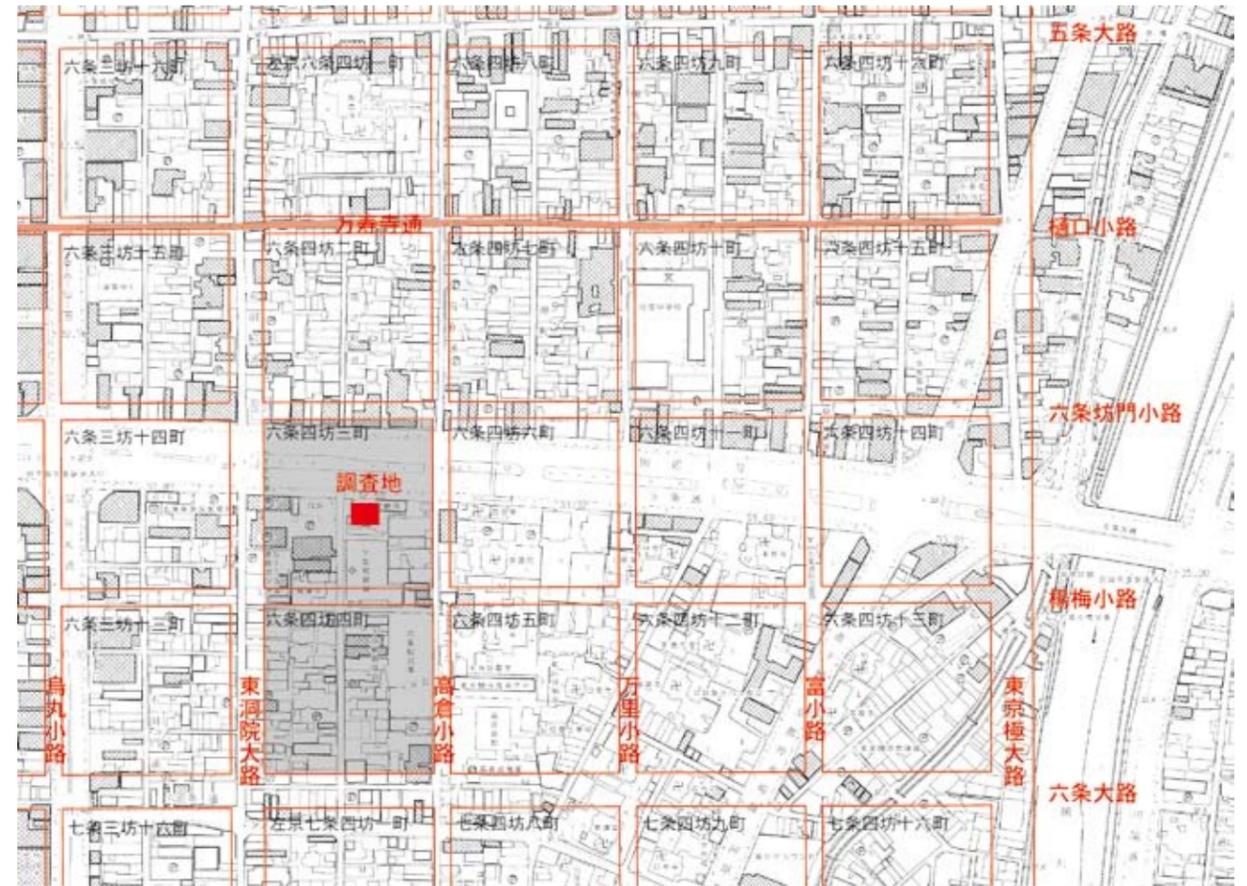


図1 調査位置図 (1/5,000)

万寿禅寺の年譜

「京城山万寿禅寺記」

本寺は郁芳門院追厳道場、昔六条院也。(平安京左京六条四坊三、四町)

郁芳諱テイシ、白河上皇長女。源顕房女、中宮賢子は母。堀川天皇は弟。嘉保三年（1096）八月七日崩、二十一才。(「中右記」)

永長二年（1097）郁芳遺宮を革め仏寺とする、俗称六条御堂、十月十四日供養。(「百練抄」)。

康和元年（1099）六条院焼亡(「百練抄」)。

同年 八月十二日再建供養。

保安四年（1123）六条院焼亡(「百練抄」)。

平治元年（1159）因幡堂、河原院と同時に六条御堂災(「百練抄」)。

正嘉年中（1257-59）十地上人(覚空)、慈一上人(宝覚禅師)、東福寺円爾の室に入り、浄土教より禅宗に転じ、六条院御堂を万寿禅寺に改める。

弘長元年（1261）禅寺開堂。

文永九年（1272）供養。

同 十年 火。

元徳二年（1330）後宇多女、崇明門院、万寿禅寺北の地に仏寺を開く、報恩寺。

暦応三年（1340）万寿禅寺と報恩寺を合併。

延文三年（1358）万寿禅寺五山に列す。(「満斎准后日記」)

永享六年（1434）二月十四日、市中大火に万寿寺類焼。(「満斎准后日記」)

同 九年 大殿、山門、方丈新成。

宝徳三年（1451）寺十境を選定。

寛正五年（1464）「万寿禅寺記」を作る。

戦国末、上杉本洛中洛外図屏風中に万寿寺を画き移転以前の状況を示す。

天正十九年（1591）に東福寺中へ移転(「史料京都の歴史」)。

慶長年間制作の洛中洛外図屏風では東福寺と泉湧寺の間に万寿寺が所在したように画かれ、市内から移転後の様子を示す。



X=-111,368

X=-111,372

X=-111,376

X=-111,380

X=-111,384

X=-111,388

Y=-21,736

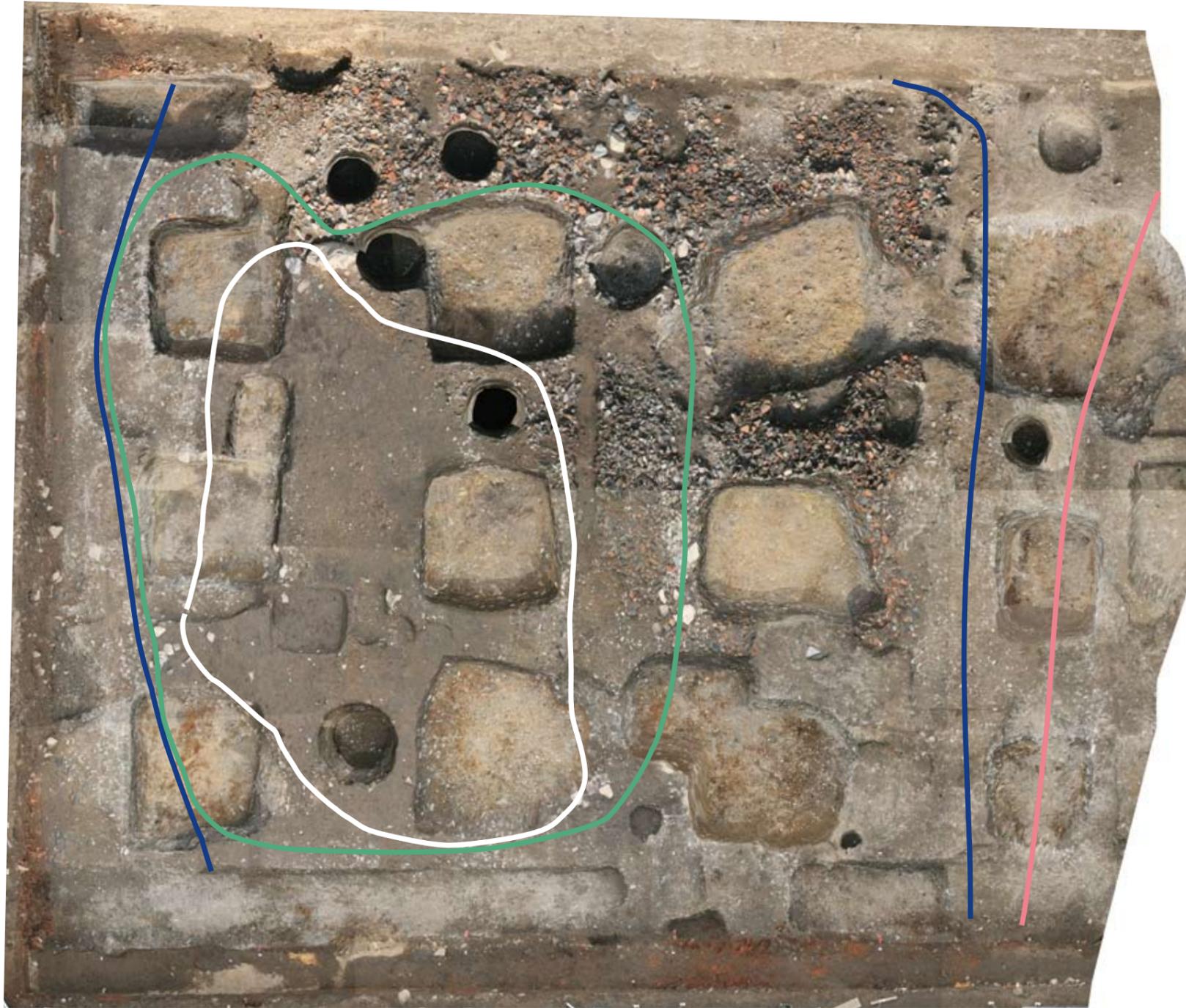
Y=-21,732

Y=-21,728

Y=-21,724

Y=-21,720

Y=-21,716



池岸の変遷

- 1期：
- 2期：
- 3期：
- 4期：

平安京図

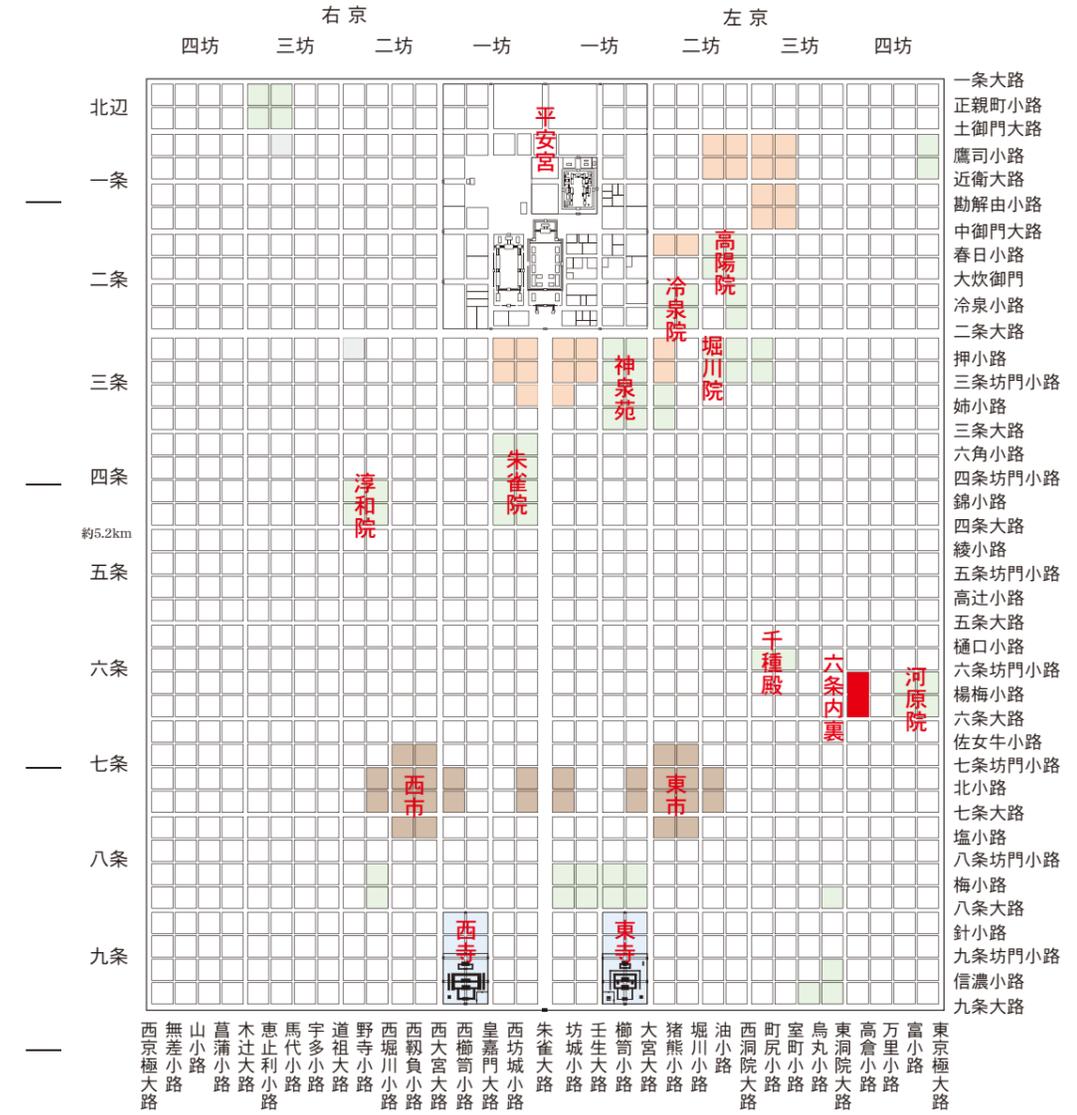


図2 池跡変遷図 (調査地垂直写真)



図3 六条内裏の位置